

「神経変性疾患の発症、進行機構の解明 —神経変性疾患の分子機構と治療に関する研究」に関する情報公開

当センターでは、東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンクに登録された方を対象に下記の共同研究を実施します。病理解剖の際に医科学研究への協力にご承諾をいただいておりますが、改めて本研究へのご協力を承りますようお願いいたします。

なお、本研究への協力を望まれない場合、あるいは研究の詳細についてお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ担当者までご連絡ください。

●研究の名称

神経変性疾患の発症、進行機構の解明—神経変性疾患の分子機構と治療に関する研究

●研究責任者

東京都健康長寿医療センター 神経病理／高齢者ブレインバンク 齊藤祐子

●研究の対象

2001年7月～2026年12月に東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンクに登録された方の内、病理診断によりアルツハイマー病、進行性核上性麻痺、皮質基底核変性症、前頭側頭葉変性症、嗜銀顆粒性認知症、筋萎縮性側索硬化症、レビー小体型認知症、多系統萎縮症と診断された方および顕著な疾患なしと診断された方。

●研究の期間

倫理委員会承認後から2027年3月まで

●研究の目的と概要

多くの神経変性疾患には病気の診断に使われるような特徴的な異常型タンパク質病変が認められ、神経変性の原因と考えられています。そこで、患者剖検脳に蓄積する異常型タンパク質の成分やその構造を解明することは病気の発症機序解明や治療法開発につながると考えられます。脳内でおこる変化や異常を、形態学、生化学、分子生物学などの様々な手法を用いて解析することにより、実際の患者脳内で何が起きているかを解析します。また、異常型タンパク質を導入することにより、疾患の病態モデル動物を構築し、治療法の開発に繋がります。

●研究の方法

試料は匿名化されて共同研究先である東京都医学総合研究所に宅急便で送られます。

東京都医学総合研究所では、剖検脳から脳内に蓄積する異常型タンパク質を精製し、その成分を質量分析装置などを用いて、生化学的に解析いたします。また精製した異常型タンパク質をクライオ電子顕微鏡によって解析し、どのような構造をとっているかを明らかにします。

す。精製した異常型タンパク質は、細胞あるいは動物の脳内に導入することにより、病態を再現する疾患モデルを構築できるので、このような疾患病態モデルを用いて治療薬や治療法の開発につなげます。

得られた研究成果は、個人の特定ができないようにした上で、国内外の学会や学術雑誌、データベース等で公表されます。

●研究に使用する試料・情報

アルツハイマー病、進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症、前頭側頭葉変性症、筋萎縮性側索硬化症、嗜銀顆粒性認知症、レビー小体型認知症、多系統萎縮症、各 10 例程度と顕著な疾患のない対照の方約 20 例の脳神経組織および付随する情報（臨床情報を含む）

●研究組織

東京都健康長寿医療センター 神経病理／高齢者ブレインバンク 齊藤祐子
村山繁雄
東京都医学総合研究所 長谷川成人(研究代表者)

●お問い合わせへの対応

本研究に関するご質問や資料閲覧のご希望は、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。
研究計画書や研究方法に関する資料については、ご遺族の希望に応じて、他の研究対象者や研究者に不利益が及ばない範囲内で、ご覧になることができます。また、研究への協力撤回を表明された場合は、速やかに研究での利用を停止いたします。研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることはございません。しかしながら、すでに研究に使用されていた場合には、結果の削除など十分なお対応ができない場合がありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

〒173-0015 東京都板橋区栄町 35 番 2 号
東京都健康長寿医療センター
高齢者ブレインバンク/神経病理 齊藤祐子
電話 03-3964-3241 内線 4419 (平日 9:00~17:00)